

イルミナ(ILMN)

【セクター】 医療機器

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

遺伝子解析ソリューションを提供する世界的なトップ企業です。19年12月期の売上で87%を占めるDNAの塩基配列を解読する装置のシーケンサーを主力に、同13%を占める遺伝子発現量を測定するためのマイクロアレイ（DNAチップとも呼ばれる）も扱います。大学や政府などの研究機関や医薬品メーカーなどの研究所が主要顧客です。シーケンサーは、1台約2万ドルから1,000万ドルの機種まで幅広く揃え、世界で1万5,000台以上が稼働しています。20年1月にがんのゲノム検査の分野でロッシュと提携しています。

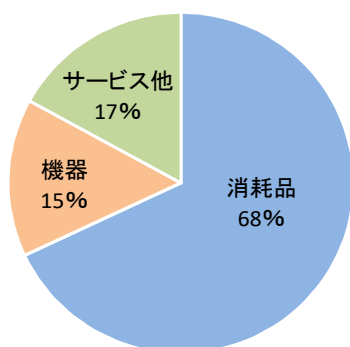
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年12月期	3,333	825	5.55	0.00	25.6	25.4	56.1
19年12月期	3,543	987	6.64	0.00	31.4	23.6	63.1
20年12月期予想	3,148	695	4.81	0.00	32.2	13.6	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

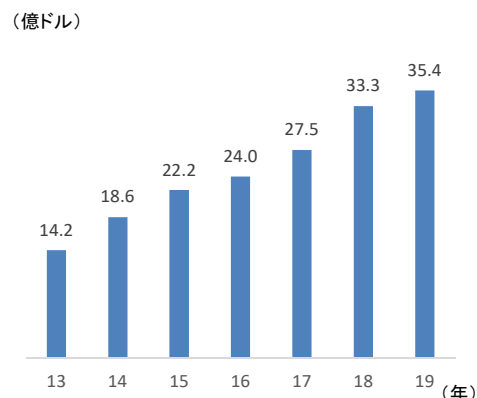
【主要指標】

図表1 売上構成比（19年12月期）



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

図表2 売上高の推移



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

イルミナがもつ遺伝子解析技術が使われる分野は、現在の主力となっている創薬関連から、再生医療、がん治療、消費者向けなどに広がっており、また、使用される施設も研究所からクリニックなど医療現場に広がることで、長期の売上ポテンシャルとして200億ドルの可能性があるとしています（19年3月の会社プレゼンテーションより）。COVID-19の影響で今期には実現しないものの、シーケンサー部門では主力機種の「NovaSeq」が複数年にわたる買い替えサイクルに達していることと最近発売した「NextSeq 2000」の貢献により、売上成長率は今後高まると想定されます。

【見通し・注目点】

20年4-6月期は、COVID-19のパンデミックの影響で顧客のオペレーションが低下したため、売上は前年同期比25%減、調整後EPSは同54%減と落ち込みました。20年1月に公表した20年12月期の業績ガイダンスでは、シーケンサー部門がけん引することで売上は前年同期比9～11%増と成長率の回復が提示されていました。COVID-19の影響が終息すれば、再び成長軌道に戻ることが期待されます。

（SBI証券 投資情報部 榮 聡）

（更新日 20/8/12）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。